

事項	約2か月間で3回の採卵が可能なウシ（黒毛和種）過剰排卵処理方法																													
ねらい	<p>受精卵生産のため過剰排卵処理された牛は、ホルモンの影響により卵巣が肥大しているため、次の過剰排卵処理まで通常2～3か月卵巣の回復期間をおく必要があり、年間3～4回の過剰排卵処理が限度である。</p> <p>今回、卵巣への負担の少ない必要最小限のホルモン量について検討したところ、約2か月で3回の過剰排卵処理が可能なが示され、短期間で大量の受精卵生産が図られることから普及に移す。</p>																													
普及する内容	<p>1 過剰排卵処理方法</p> <p>(1) 発情日を避けて、膈内留置型黄体ホルモン製剤（シダー）を膈内に挿入する。</p> <p>(2) シダー挿入日を0日とし、4日目にFSH18AUを50mℓの生理食塩水に溶解し頸部皮下へ投与し、同時にPGF2αを投与する。</p> <p>(3) 6日目の朝にシダーを抜き取る。</p> <p>(4) 7日目の夕方にGnRHを投与し翌日8日目の夕方に人工授精を実施する。</p> <p>(5) 15日目に採卵を行い、採卵終了後動物用イソジン液30mℓを子宮内に注入する。同時にPGF2αを投与し黄体を退行させ卵巣の回復を早める。</p> <p>(6) 採卵終了から13日目に2回目の採卵開始を行い、同様の作業を3回連続で実施する。</p> <p>採卵スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">投与時間</th> <th colspan="6">シダー挿入後日数</th> </tr> <tr> <th>0日目</th> <th>4日目</th> <th>6日目</th> <th>7日目</th> <th>8日目</th> <th>15日目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>午前 (9:00)</td> <td>シダー挿入</td> <td>FSH1回投与 PGF2α投与</td> <td>シダー除去</td> <td></td> <td></td> <td>採卵 PGF2α投与</td> </tr> <tr> <td>午後 (16:00)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>発情 GnRH投与</td> <td>人工授精</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*使用した薬剤 膈内留置型黄体ホルモン製剤：シダーまたはイージーブリード FSH：アントリンR、GnRH：イトレリン2.5mℓ、PGF2α：エストラメイト3mℓ</p> <p>2 連続採卵による効果</p> <p>(1) 71日間で年間分に相当する3回の採卵が可能となる。</p> <p>(2) 連続で採卵を行っても、正常卵子数の低下は見られない。</p>			投与時間	シダー挿入後日数						0日目	4日目	6日目	7日目	8日目	15日目	午前 (9:00)	シダー挿入	FSH1回投与 PGF2α投与	シダー除去			採卵 PGF2α投与	午後 (16:00)				発情 GnRH投与	人工授精	
投与時間	シダー挿入後日数																													
	0日目	4日目	6日目	7日目	8日目	15日目																								
午前 (9:00)	シダー挿入	FSH1回投与 PGF2α投与	シダー除去			採卵 PGF2α投与																								
午後 (16:00)				発情 GnRH投与	人工授精																									
期待される効果	短期間で大量の受精卵を確保し、高能力牛の短期増産が可能となる。																													
普及上の注意事項	<p>1 FSH（アントリンR）は表示力価に対する含有量108%前後のロットを使用する。</p> <p>2 FSHは皮下へ注射し、注射部位は揉まないこと。</p> <p>3 採卵後は必ずPGF2αを投与し、7～10日後に発情が見られない場合は連続採卵を行わないこと。</p>																													
問い合わせ先（電話番号）	畜産研究所 繁殖技術肉牛部 (0175-64-2233)	対象地域	県下全域																											
発表文献等																														

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 FSHの投与量が採卵成績に及ぼす影響 (平成27年 青森畜産研)

FSH投与量	黄体数	遺残卵胞数	採卵総数	正常卵数
15AU	18 ( 6.0)	6 (2.0)	14 ( 4.7)	8 (2.7)
18AU	37 (12.3)	20 (6.7)	35 (11.7)	20 (6.7)

( ) 内は平均値

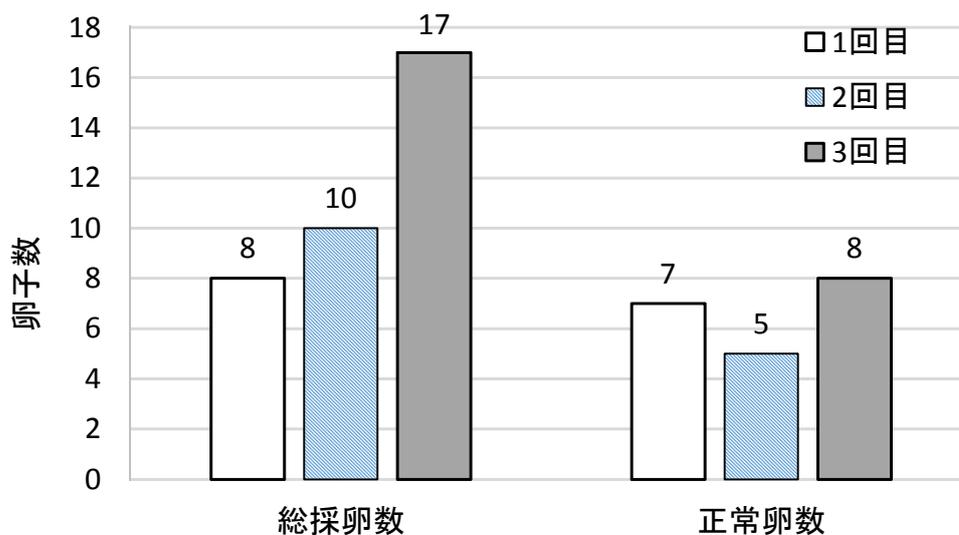


図1 採卵回次別の総採卵数および正常卵数

(平成27年 青森畜産研)